

「BRICAsが世界の食料を食い尽くす！」

BRICAsとは？

ブラジル・ロシア・インド・中国の4カ国、それに敢えて、南米の移民がなだれ込んでいる米国を指してみました。そしてこの5カ国は、環境問題にも鈍感な環境後進国でもあります。

2020年代には世界の食料の半分以上を、この5カ国が消費する時代がきます！

【5カ国の共通の特徴】

人々の生活水準が向上し、それに伴ってさまざまな食料品に対する需要が急速に高まっています。購買力のある中層階級の間で、それまでの伝統的な食から、西洋化・高級化が進み、量と質的にも食料資源消費大国になってきています。

5カ国合計の人口計は30億人以上と量の拡大と高級化が進むことで、世界の食料の需給バランスに大きな影響を及ぼし始めています。

【5カ国の主な食料品の世界生産に占める消費量シェア予想】

	牛肉消費量	大豆消費量	とうもろこし消費量
2020年代予想	46%	52%	51%

牛肉では、中国、ブラジル、ロシアの消費拡大が予想されます。特に中国では、都市部の生活水準がさらに向上して、牛肉消費量が日本並みに高まってきています。

大豆やトウモロコシは、食生活の肉食化と密接。牛肉、豚肉、鶏肉のそれぞれ1kgを生産するのに必要な穀物量は、7kg、4kg、2kgとされています。食肉需要の高まりによって、直接的な穀物需要の何倍もの穀物が必須となります。

バイオエタメル

【BRICAsの問題要因】

世界の食料生産拡大スピードよりも、BRICAsの食料需要の拡大スピードが速い。これらの国は、今まで世界の食料品の主要な供給基地だったが、近年では、工業化の進展によって農業用地が縮小して、生産量も減少しています。農業生産性上昇も遅れ気味で、海外の需要のみならず、自国の需要も賄うことが出来なくなりつつあります。自国の旺盛な食料需要を満たすために、5カ国は国際市場での買い付けを増やし、今後も加速する見込みです。

世界的に食料品の需給バランスがタイトになる結果、食料品の国際取引価格は中長期的に上昇する公算が大きく、すでに乳製品やコーヒー生豆など一部の食料品の輸入価格は、上昇し始めています。

日本は、食料、飼料の多くを海外からの輸入に頼っている。BRICAsの大量消費は、食料輸入大国日本にとって見過ごしてできない問題になってきています。

飽食の時代とよばれている時代で、食物が溢れていますが、世界レベルでは、食糧危機はすぐそこまで迫ってきています。日本は自給率40%。食料の供給源の約60%を海外に頼っています。その一方では、農業へ従事する平均年齢が65歳を越え、農業の後継者が減少し農地が空いてきています。食料自給率の向上のためにも、現時点の日本農業を再構築する必要がある、緊急の課題となってきています。

RIからの提案!

Re.瑞穂の国 (Re.とは・・re/use、re/cycle、re/duceのように、「再び新しく戻る」という意)